

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	フラワー吉原
（ユニット名）	しおん
所在地 （県・市町村名）	山形市
記入者名 （管理者）	（管理者）工藤里美（ユニット長）鈴木美枝子 （介護員）遠藤清子、真坂恵理子、瀬川 実、奥山美代子、鈴木香代子
記入日	平成 20年 10月 1日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	尊厳や権利、個性を大切にしながら、地域の中で安心して暮らしが継続出来るように、ホーム独自の理念を事務所入り口に掲示している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時研修で理念を伝えており、現任研修時に理念の確認を行っている。ユニット会議開催時に理念の唱和を行い、スタッフの意識向上に繋げている。理念の具現化を行い、日々の活動に理念を取り込みやすくしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来訪者には、わかりやすくホームの案内や取り組みを伝えるようにしている。又、年3回ホーム便りを作成し、御家族や地域住民に配布し、ホームの生活の様子や取り組みを理解してもらえよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買物に出かけ、近隣の方々や商店の人と挨拶を交わしたり、話をしたりしている。ホーム通信紙を近隣の方が「楽しみの読ませてもらっている。」と声を掛けて頂いたり、近隣の方より野菜の差し入れを頂いたりし、少しずつだが馴染みの関係になってきている。又、出来るだけ近隣の商店を利用するようにしている。	○ 近隣の住民の方が気軽に立ち寄ってもらえるような付き合いまでにはなっていない為、これからも挨拶、声掛けに努めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に一般会員として加入しており、地域のお祭り、盆踊り、敬老会等には利用者と共に参加している。又、近くの福祉施設の入所者が月1回来所され交流を図ったり、5月末に中学生が職場体験学習で来訪されている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として今年度は介護職員基礎研修の実習生、地域密着型サービス評価調査員の研修生を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年2回、全職員で自己評価を行い、改善に向けての具体案の検討や実践に繋がれるよう取り組んでいる。自己評価の意義の理解は出来ているが、改善や取り組みに関しては話し合う機会が少ない。	○	ユニット会議などを利用し話し合いの場を作り、より具体的な改善に取り組めるようにする。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、活動状況や入所者、職員の状況等を報告し、意見をもらうようにしている。又、自己評価や外部評価の結果を報告し、意見や要望等を取り入れるようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れなど、サービス向上のために市と連携を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われる利用者がいないため、権利擁護に関して知識や理解が少ない。	○	勉強会を開催し、職員が学ぶ機会を作る。研修会への参加。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時研修の中で、拘束、虐待について説明を行っている。個々の例を検討しながら、拘束等がないように取り組んでいる。	○	理解を深めるために勉強会の開催や研修会等に参加する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間を十分にとり説明を行っている。特に利用料金や緊急時の協力要請、契約解除については詳しく説明をし、同意を得るようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で入所者の言葉や態度から、本人の思いを察するように努めている。又、介護相談員や傾聴ボランティアを受け入れており、外部者にも伝えられるようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1ヶ月の様子、預り金入出金報告書を家族に郵送している。又、面会時にも近況を伝え、時には意見等も頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した際、入所者の状況等を伝えながら家族の意見等を伺うようにしている。又、家族会を設けており、懇談会等で意見交換が行われている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各ユニット会議で話われた内容や意見等を聞き、活かすようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入所者の生活の流れに合わせたローテーションを組んでいる。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを行っている。離職による職員の入れ替わり時も、入所者に影響が出ないように、他職員による配慮が行われている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外研修に参加した職員には、研修レポートを記入し、各ユニットに配り情報を共有出来るようにしている他、ユニット会議で研修内容を報告する機会を設けている。	○	研修会への参加人数が限られてしまったり、同じ人に偏ってしまう為、出来るだけ多くの職員が参加出来るように配慮したい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や県のグループホーム連絡会主催の研修会等に参加しており、意見交換や交換研修に取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	事業所内に親睦会を設け、定期的に気分転換を図れる機会を作っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員各人の自己評価を昨年度は行えなかった。	○	日頃のケアを見直しながら向上心を持って働けるように、職員各人の自己評価を行う。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接で、本人の状態や生活状態の把握に努め、本人の話を傾聴しながら困っている事、不安に思っている事等、本人の気持ちを把握するようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が不安に思っている事や事業所や本人への希望を伺い、事業所としてどのような対応が出来るか、話をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を行っている。又、入居者や家族のニーズに合わせて対応を行っている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から教えて頂いたり、助けて頂くことが多いので常に感謝の気持ちを忘れないようにしている。入居者一人ひとりの残存能力を理解しながら調理の場面や趣味の場面、今までの生活歴を通して学んだり、会話をすることで支えあったりしている。	○	全ての職員が入居者の性格、特技などをもっと把握し、人生の先輩として学んだり、支えあう場面作りをそれぞれの職員が意識し取り組んでいくようにする。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所された時や電話連絡を行い際、本人の状況を報告し、御家族の協力が必要な時はお願いしたりしている。行事等の案内時も御家族に積極的に参加を働きかけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人との繋がりを深めていけるように、行事を企画し、本人と一緒に時間を過ごせるように場面設定している。本人の思いや状況を見て、面会に来て頂けるようお願いしたり、無理な場合は電話で会話したり、手紙の利用も行っている。	○	出来るだけ行事に参加して頂けるよう、家族に促していく。家族、本人の思いや状況を見極めながら、家族と一緒に過ごせるような外出や外食の機会を設けられる様、取り組んでいきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望があれば関係継続に努めているが、ご自分から言えない方が増えており、入居者側からの馴染みの場への外出や馴染みの知人との面会は少ない。	○	一人ひとりの希望に合わせ、入居者側からの関係継続の支援を増やしていく必要があり、まず一人ひとりの希望を把握することから始める。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの性格や個性を理解し、様々な活動の場面で入居者同士の関係が円滑になるように働きかけている。トラブルがあった場合はさりげなく間に入り大事にならないように努めている。介護が必要な方に関わりが多くなり、利用者の中には孤立しやすい人がいる。	○	同じ入居者に偏らないようにしていきたい。職員が間に入り、良い関係を作り穏やかに過ごせるように努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今まであまり例はないが、家族が訪問してきたり、電話を下さった場合は、本人の様子を伺ったり、家族の相談にのるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情から、それぞれの思いや希望等を把握するように努めている。本人の意思を伝えられない方には、今までの生活歴の中から検討している。	○	本人本位に検討している方に対しても、些細な事にも気付けるよう、確認や声掛けなどを行っていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接で、本人の生活歴や生活スタイル、趣味やサービスの利用状況等を本人や家族から聴き取り、情報の把握に努めている。又、本人との会話の中からも情報の把握に努めている。	○	入居前には殆ど行っていなかった事についても、状況を見て可能な範囲で取り組んでいきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の中で会話や関わりの中から把握するようにしており、見極めをする事で、よりその方の行動を理解するようにしている。	○	満足の得られる1日の過ごし方に努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中での職員の気付きや意見を取り入れながら、ケアプランに活かすようにしている。家族の面会時や便り等で、本人の生活の様子を伝え、家族の意見や要望等、反映させるようにしている。	○	カンファレンスを十分に行い、意識を高めていく必要がある。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定した期間で見直しを行うようにしており、本人の状態変化に応じ、検討、見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、食事量、排泄、睡眠状況等記録している。又、行動記録に日々のケアの提供状況、入居者の言葉や状況等を記録し、その職員の気づきや工夫を記録し、スタッフ間で情報を共有するようにしている。	○	個別記録を各スタッフが目を通し、連絡帳なども利用し情報の共有に努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	入居者が地域生活を継続していく為に、周辺施設や商店の協力を得ながら支援を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	近隣の福祉施設の方が毎月訪問して下さり交流を図ったり、入居者の状況に応じ、訪問理美容院を利用させてもらうことがある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、関係が強化されている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関となっており、入居者の状態変化がある場合、家族と相談の上対応を行い、受診結果については文書や電話で報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体が精神科の医療機関であるため、認知症について指示や助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。不在時は記録や電話連絡などをもとに連携を図っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向け、職員が見舞いに行き状態確認を行ったり、家族や医療関係者と情報交換を行いながら、本人にとって一番良い方法や、安心して過ごせる場所を提供できる様協働している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応、看取りに関して指針を定め、家族から同意をもらっている。又、状態の変化があるごとに、家族に気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援を行うようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の入居者がホームで生活する上で、対応が可能な事、困難な事、職員が不安に思っている事等を家族に伝え、ホームの現状、本人の状態を理解してもらうようにしている。家族やかかりつけ医とも連携を取りながら、今後について検討を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他事業所に移られた場合、これまでの暮らしが継続出来るように、本人の医療や介護の状況等の情報提供を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○	入居者全員がレベル低下している為、ゆっくりと会話できる様に時間をとるように、職員全員で取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	ただリビングでテレビや新聞を見て過ごすだけではなく、ゆったりと関わる時間を増やし、まずは本人の希望を理解した上で、その日のペースに合わせた支援を行っていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○	献立を決める際に入居者の方の好みや考えを生かすメニューをたてるようにする。一緒に考える、一緒に買物しながら献立を決めるなどの機会を増やしていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を付け、排泄リズムを把握しトイレ誘導を行い、出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している。入居者個々に合わせてパット等を使い分けており、失敗した場合は羞恥心に配慮しながら対応を行っている。	○	トイレ誘導の時は入居者双方に気配りを行い、声掛けの場所、声の大きさ、言葉掛けを工夫したさりげない誘導を行うように心掛ける。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に合わせて時間帯や湯温の配慮を行っている。入浴拒否の方の場合は、清拭や足浴、衣類交換等の支援を行っている。	○	入居者の体力に応じた支援を見極める。ユニット会議で話し合い、職員間で統一したケアが行えるように取り組んでいく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の健康状態を把握し、ゆっくりと休めるよう声掛けしたり、夜間なかなか眠れない方へは、飲み物や果物等を提供したり傾聴するなどし、安心して眠れるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や掃除、洗濯物畳み等、それぞれの入居者に合った活動をお願いし、必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。調理の場面や畑仕事、塗り絵等で一人ひとりが力を発揮できる様、役割や楽しみごとの場面設定を行っており、入居者の生き活きとした表情が伺える時がある。	○	入居者の方々の豊かな暮らしを支える為に、一人ひとりの役割、楽しみごと等が増えるよう、職員の働きかけが必要である。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方は小遣い程度所持している。自己管理出来ない方は事務所で管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材や必要な物品の買出しで毎日のように外出している。又ドライブや外食等に出かけ、気分転換を図るようにしている。一人ひとりの体調に合わせて外気浴や散歩等の声掛けを行っている。	○	その日の入居者の希望にそえる柔軟な対応ができる様、当日の勤務者間で話し合いを行い支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	馴染みの場所や店に連れて行ったりしている。入居者によっては墓参りや外食等、連れて行って下さる御家族もあるが、家族の協力がなかなか得られない方もいる。	○	家族との外出が可能な方や、行きたい気持ちを大切に、もっと家族との時間が作れるように働きかけていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を家族や知人に出したり、家族と電話で話すなど支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人が気軽に来やすいように、訪問時間は定めておらず、仕事帰りや家族の都合の良い時間帯に来ていただけるように配慮している。居心地良く過ごせる様に、様子を見ながらリビングや居室で過ごしていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時研修に於いて、身体拘束の内容とその弊害、虐待について説明しており、拘束のないケアを心掛けている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は玄関の鍵は常に開放しており、自由に外へ出入り出来る様にしている。常時徘徊する方がいる為、出て行く気配を見落とさないように、見守りを行っているが、他者との関わりにより見守りが困難になる時は、一時的にユニットの扉を突っ張り棒で開かなくする時がある。	○	突っ張り棒をしている時間が長い時があるので、出来るだけ鍵をかけず開放出来る様に、スタッフ間での声掛け見守りを心掛ける。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビング台所から居室やトイレ、ユニットの入り口の出入りが確認でき、入居者の状況を常に把握するように努めている。個々の生活リズムを把握し、居室で休まれている方はプライバシーに配慮しながら、時々様子を見に伺うなどしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物は扉のある棚に保管したり、持ち歩かないよう工夫している。台所で使用するものは、使用後は直ぐに片付けるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	共有スペースの整理整頓を心掛けており、躓きや転倒事故等が起きないようにしている。又、誤薬のないようにダブルチェックをしたり、事故報告書やひやりハット報告書を記入し、ケガなし委員会で話し合い、再発防止策等検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルが常に目の届く所にあり、そのほかに看護師より勉強会を行っているが、実際に起きた時にどう対応するか訓練があまりない。	○	色々なことを想定した訓練に取り組む。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行い、避難誘導の方法や避難経路の確認、消火器の取り扱い等の訓練を行っている。	○	地震の時の出口の確保や居室内の箆笥等の固定や座布団の準備等を行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出によりリスクは高くなるが、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくしている事伝え理解を得られるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者一人ひとりの持病やアレルギー等を把握し、普段の状況で少しでも様子等の変化があれば、バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている。状況により医療受診に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の処方箋を綴り、いつでも確認出来るようにしている。薬の変更、処方時は申し送りや看護師ノートで確認し、服薬時は確実に服用するまで見守りを行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や適度な運動を働きかけ、自然排便が出来るように取り組んでいるが、便秘傾向の方は状態に合わせて下剤量を調節し使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者個々の習慣や意向を踏まえながら、口腔ケアや義歯洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はチェック表に記録しており、定期的に管理栄養士の専門的アドバイスをもらっている。1度に水分補給できない利用者には少しずつ声掛けて摂取していただいている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策のマニュアルを作成し、季節や地域の感染症発症状況により、早期対応に努めている。外出後の手洗い、うがいの声掛けも行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日まな板や布巾を漂白し清潔に心掛けている。常に整理整頓に努め、調理前は手指消毒を行っている。食材の賞味期限のチェックや調理したものの作り置きや、食べ残しをとっておかないようにしている。	○	野菜等、時々傷んでいることがあるので、毎日確認するように心掛ける。冷蔵庫の掃除、整理、台所まわりを定期的に掃除を行うようにする。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺の花壇やプランターに花を植えたり、玄関先にベンチを置いて、日常的に活用し、明るい雰囲気作りを行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大切に、調理の音や匂い、昔懐かしい音楽、季節に合わせた飾りつけを行い、五感や季節感を取り入れる工夫をしている。不快な光等がないよう、居心地良く過ごせるよう整えている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に座敷があったり、ソファを2ヶ所に置いてあり、好きな場所でくつろげるスペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるようにしている。昔の思い出の写真やアルバムを見せて頂き、談話を楽しませている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中、夜間とも温度と湿度のチェックを行い、冷暖房の調節は職員の感覚だけではなく、入居者の状態に配慮しながら行っている。	○	一部の入居者で積極的な支援が必要な方がいるため、職員全員が意識し取り組んでいく必要があり、具体的な話し合いを行っていく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の流し台の高さは、入居者が作業を行いやすいように作られており、浴槽も跨ぎやすいように埋め込まれている。床はバリアフリーで車椅子の方も生活しやすいようになっている。廊下は手すりがあり歩行困難な方の安全に努めている。	○	ソファに座っている方が居ると、廊下がせまくなる為、車椅子や二人並んで通る時は気をつけて見守りを行うようにする。歩行困難な方の入浴介助で安全確保が保持できない為、今後検討が必要である。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の混乱を招くような物や汚れは速やかに取り除くように配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキにベンチや洗濯物干し竿やプランターを置き、活動出来る場であったり、ゆっくりと外気浴しながら会話できるようにしている。	○	天候を見て、ウッドデッキでお茶を飲んだりもしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の 人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者との つながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援 者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足して いると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね 満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の重度化が増えてきている為、「今だから出来る事」を大切に、御家族や地域の方々の協力を受けながら、入居者個々に検討し、積極的に外出する等、地域社会との関係の継続性を大切にしながら、様々な事にチャレンジしていきたいと思っている。入居者個々の見極めを行い、出来る事の継続を支援し、その人らしさを大切にしながら安心して楽しく暮せる場であるように、本人の気持ちの理解に努め、利用者本位のより良いケアが行えるように日々取り組んでいる。職員が入居者にとって信頼できるパートナーであるように、職員それぞれが入居者との関係作りに力を入れている。「しおん」ユニットは季節の習し事を大切に、玄関やフロアの飾りつけにより季節感を常に感じながら安らぎを与え、利用者間にレベル差があるが、共通して楽しめる音楽を取り入れたり職員の五感を活かしながら、利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら利用者にとって居心地の良い環境で楽しく暮せるユニット目指している。